

第9回関東甲信越地域小児がん医療提供体制協議会概要

令和3年9月3日、第9回関東甲信越地域小児がん医療提供体制協議会が国立成育医療研究センター・オンラインにて開催され、関東甲信越地域小児がん医療体制協議会参画施設、関東甲信越各都府県庁、厚生労働省健康局がん・疾病対策課、小児がん中央機関が参加した。

(出席者名簿)

開会にあたり、協議会会長五十嵐隆理事長(国立成育医療研究センター)より挨拶があった。また、厚生労働省健康局がん・疾病対策課の成田幸太郎課長補佐より挨拶があった。

構成施設について、昨年より新たに小児がん連携病院となった5施設(北里大学病院、防衛医科大学校病院、帝京大学ちば総合医療センター、さいたま市立病院、QST病院)より挨拶があった。

(審議)

1. 規定の改正についての討議

- 「関東甲信越地域小児がん医療提供体制協議会規程」、「脳神経腫瘍部会細則」の改訂と「相談支援部会規程」が新規に加わる旨、国立成育医療研究センター松本先生より報告のうえ、参加者より承認を得た。(資料1-1)
- 「脳神経腫瘍部会」の部会長選出について、参加者より承認を得て国立成育医療研究センター寺島先生が就任した。(資料1-2)
- 「相談支援部会」の部会長選出について、参加者より承認を得て国立成育医療研究センター富澤先生が就任した。(資料1-3)

2. 小児がん地域計画書についての討議

診療体制、人材育成、相談支援、臨床研究、医療安全について、2021年度に取り組むことを計画した旨、国立成育医療研究センター松本先生より報告のうえ、参加者より承認を得た。

(資料2)

(報告)

3. 拠点病院からの報告

埼玉県立小児医療センター康先生より資料の説明が行われ、昨年度の取り組みと令和3年度の計画について報告がなされた。(資料3)

4. 脳神経腫瘍部会の報告

国立成育医療研究センター寺島先生より資料の説明が行われ、情報公開から見た関東甲信越ブロックの小児脳腫瘍診療状況について報告がなされた。(資料4)

報告について、以下の議論がなされた。

- ・資料の課題と提案にある、「小児がん連携病院が指定されたが、どの連携病院に小児脳腫瘍診療を集約化していくべきか」等について。
- ・小児脳腫瘍診療の各施設への調査項目について。
- ・この協議会に参加していない脳神経腫瘍を診療している施設への調査課題について。

5. 相談支援部会の報告

国立成育医療研究センター鈴木医療社会事業専門員より資料の説明が行われ、第7・8回の相談支援部会の報告と来年度以降の開催について報告がなされた。(資料5)

6. 各地区の取り組み-山梨県の取り組み

山梨大学医学部附属病院合井先生より資料の説明が行われ、山梨県の取り組みについて報告がなされた。(資料6)

報告について、以下の議論がなされた。

- ・小児がん支援を担うにあたり今一番困っていること、高校生に対する教育支援等をどうしているかについて。
- ・年齢の上がった患者が多くなってきているなかでトランジションを具体的にどのようにしているか。またトランジションをするなかで困っていることについて。

7. 新型コロナウイルス感染拡大による「小児がん診療現状調査」

国立成育医療研究センター松本先生より資料の説明が行われ、新型コロナウイルス対応時小児がん現状調査の報告がなされた。(資料7)

8. アンケート集計報告

国立成育医療研究センター米田先生より資料の説明が行われ、「小児血液・がん専門医研修施設について」「造血細胞移植等の予防接種再接種の補助について」「施設の患者向けインターネット環境等について」「小児がん患者の高校生の学習支援について」等の報告がなされた。(資料8)

報告について、以下の点が議論された。

- ・副反応にかかる対応（救済策）について。

9. 総合討論

※議事ごとに討論があったため、総合討論は無し。

「世界小児がん啓発キャンペーン」と「世界のすべてのがんの子どもを救おう」について、国立成育医療研究センター松本先生よりお知らせした。